

IGF2025報告会
2025年10月8日



北九州市立大学
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU

AIに関するセッション

北九州市立大学
寺田真一郎 (Shinichiro Terada)
sterada@kitakyu-u.ac.jp

1. 初めに

- 北九州市立大学 寺田真一郎
（専門：AI、Internetのビジネスエコシステム）
- 外国での参加は、初めて。（京都参加あり）
- 後半：Day3（木）とDay4（金）のみ参加。
- AIについてのセッションを中心に拝聴した。

2. 紹介セッション



北九州市立大学
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU

1.

(Day3) 09:00-10:00 Open Forum #30

High-level review of AI governance including the discussion

2.

(Day3) 10:30-11:45 WS#288

An AI Policy Research Roadmap for Evidence-Based AI Policy



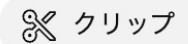
(紹介セッション1) Review of AI governance

「High-level review of AI governance including the discussion」



IGF2025 DAY3 Conference High level review of AI governance

 Internet Governance Forum (IGF)
チャンネル登録者数 5670人



(紹介セッション 1) Review of AI governance



北九州市立大学
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU

(目的)

広島AIプロセスに合わせ、AIガバナンス推進について現状認識を述べる。

(モデレータ)

飯田陽一/OECD、総務省 (政府)

(スピーカー)

Dr. Ansgar Koene/ Ernst & Young Global Public Policy (コンサルティング)

Mr. Abhishek Sing/ National Information Center, India (インド政府)

Ms. Lucia Russo/ OECD (エコノミスト)

Ms. Melinda Claybaugh/ Meta (AI事業者)

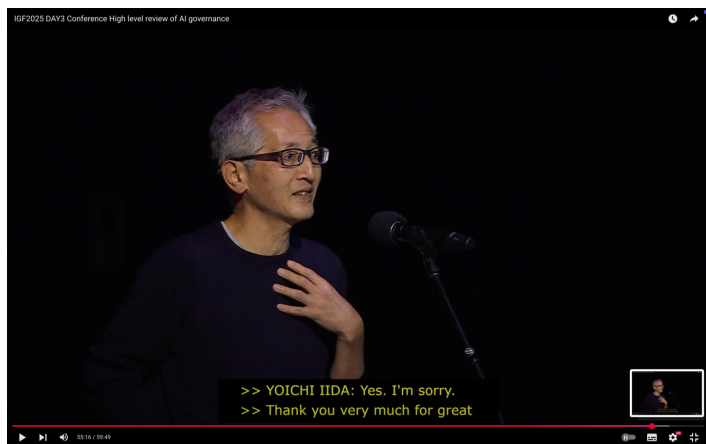
Dr. Juha Heikkila/ EU Commission (EU政府)



(紹介セッション 1) Review of AI governance



北九州市立大学
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU



質問：寺田

- AIガバナンスを、インターネットガバナンスと比べることにより理解したい。
- インターネットは、当初、世界の人々へのアクセスの推進など様々な問題があったが、インターネットガバナンスの活動などでこれを解決してきた。
- 両者を比べると、インターネットは特定の事業体がコントロールしているわけではないが、AIはさまざまな事業体、特に巨大テック企業などが関与して成り立っている。
- このような状況の中で、インターネットガバナンスとAIガバナンスの一番大きな違いは何なのか？



(紹介セッション 1) Review of AI governance



Dr. Juha Heikkila/ EU Commission (EU政府)

- 昨日のパネルで次のコメントがあった。
- 「AIはインターネット上にあるから、インターネットガバナンスを適用できる」。
- しかしながら、インターネット上のものに比べ、AIにはもっと多くのものが含まれる。例えば、embedded AIを考えてみまよう。知的ロボット、自動走行自動車、その他など、すべてのAIがインターネット上にあるわけではない。
- AIガバナンスは、いくつかのインスピレーションをインターネットガバナンスから得ることができると思うが、数多くの問題は、AIガバナンスに特有 (specific) な問題として考えなければならない。
- このため、個人的には、広い意味でAIガバナンスとインターネットガバナンスは別のものであると考えている。

(紹介セッション1) Review of AI governance



北九州市立大学
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU



Mr. Abhishek Sing/ National Information Center, India (インド政府)

- 広い意味ではJuhaに賛成する。AIとインターネットは別のものです。AIはインターネットよりもっと多くのものを含む。ユースケースや、コントロールをいくつかのプレイヤーが参加するなどだ。
- しかし、さらに公平 (equitable) にAIをコントロールするため、インターネットガバナンスの原則を取り入れる、例えばマルチステイクホルダー、インクルーシブにするため私たちがアプローチしてきたこと、テクノロジーのユーザーとテクノロジープロバイダー、これらをもっとバランスよく、公正 (fair) に、公平 (equitable) にすること、そしてグローバルパートナーシップを結ぶこと。
- IGFの持つ、フレームワーク、メカニズム、プロトコルは、AIガバナンスの良いガイディングライトにすることができる。



(紹介セッション 1) Review of AI governance



北九州市立大学
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU



Dr. Ansgar Koene/ Ernst & Young Global Public Policy (コンサルティング)

- Juhaが（プレゼンテーションの中で）多くの政府のAIに対するアプローチの一つとして、リスクベースのアプローチをとっていることを述べました。
- AIそのものは、ユースケースによっては大変なリスクだが、一方、AIはコアテクノロジーであるため様々なアプリケーションや領域に利用できてしまう。
- （AIに比べ）インターネットはもっと均一（uniform）なものである。



感想（よく考えてないです）



北九州市立大学
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU

（紹介セッション 1 から）

- AIガバナンスは、政策（policy）面だけではコントロールするのは難しい。



(紹介セッション2) AI Policy Research Roadmap



北九州市立大学
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU

「An AI Policy Research Roadmap for Evidence-Based AI Policy」

(目的)

AI政策研究 (AI Policy Research) が、AIガバナンスにどのように貢献できるかを議論。

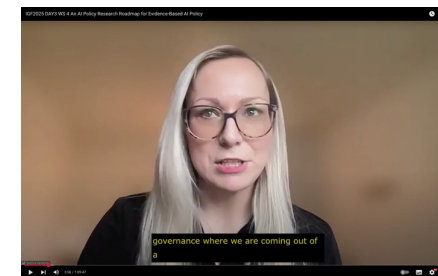


<https://www.youtube.com/watch?v=zJxiLKHOSUU>

(Moderator)

Tatjana Titarev

:AI Policy Lab (Umeo University, Sweden)



Isadora Hellegren:

Mila, Quebec Artificial Intelligence Institute (Canada)



質問



Dr. Eltjo Poort

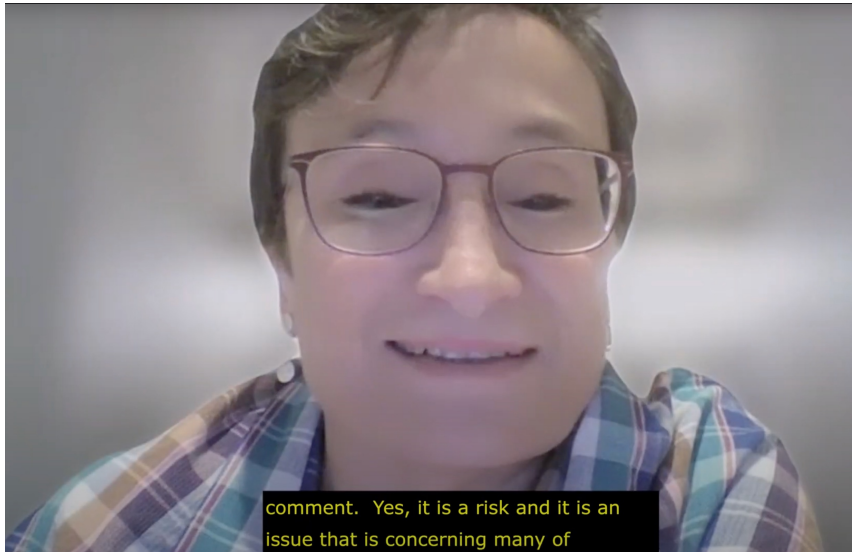
CGI consulting, Netherland (コンサルティング)

- アメリカではAI規制に対して非常に強い反発が見られる。
- これは本質的にAI政策研究にも影響を及ぼす可能性がある。AI政策研究が「アクティビズム的（政治的活動的）」な研究と見なされるようになり、その結果、資金提供が危うくなる。
- AI政策研究を、このようなリスクから守る方法はあるか？

(紹介セッション2) AI Policy Research Roadmap



北九州市立大学
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU



Dr. Virginia Dignum

- Professor, Umeå University, Director, AI Policy Lab
- AI政策研究と「アクティビスト的AI（政治的・社会運動的AI）」との境界線は、非常に狭くなってきている。
- 規制に対する反発はヨーロッパでも見られる。
（例：スウェーデンの首相が、EUに対してAI法の進展と実施の停止措置を提案）
- しかし、こうした状況こそが、実証的でエビデンスに基づいた科学研究の重要性を示している。 AIに関する議論は、政治家の気まぐれや、民間企業の判断だけに委ねるべきものではない。



(紹介セッション 2) AI Policy Research Roadmap



北九州市立大学
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU

- また、問題は「AIを使えるかどうか」、「どう使うか」という技術的な問題ではなく、「なぜ使うべきなのか」という根本的な問いにある。これは社会的・政治的な根本問題。そして、その問いの立て方によって、導き出される答えも変わってくる。
- AIの利用によって「何を得るのか」、「何を失うのか」という問いは、社会全体が深く関与して考えなければならない問題。



(紹介セッション2) AI Policy Research Roadmap



北九州市立大学
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU

AI Policy Lab

AI IS NOT NEUTRAL

- AI systems shape **decision-making, behaviour, and power** structures, often invisibly.
- Current deployment trends tend to:
 - Reinforce existing inequalities, especially in the Global South.
 - Marginalise non-Western worldviews in AI norms and design.
- Responsible AI** must go beyond technical fixes
 - It requires **inclusive governance, contextual understanding, and accountability**.

AI Policy Lab
at Kitakyushu University

The World Map according to the data AI sees

Frequency of dataset usage by country

Sources
Research by: Koch, Denton, Hanna, and Foster (2021)
Visual by: The Mozilla Internet Health Report 2022

Google exploited homeless black people to develop the Pixel 4's facial recognition AI
Russia Tests New Disinformation Tactics in Africa to Expand
Amazon's facial recognition matched 28 members of Congress to criminal mugshots
Flawed Algorithms Are Millions of Students' Enemies
WHAT HAPPENS WHEN AN ALGORITHM CUTS YOUR HEALTH CARE
Indigenous elder slams 'hollow and tokenistic' consultation by Sidev

WRITERS GUILD ON STRIKE!
NO AI!!

Internet foundation showing our AI since the world and this is in 2022



<https://www.youtube.com/watch?v=zJxiLKHOSUU>



AI Policy Lab



AI Policy Summit

Bringing together AI Policy Researchers,
discussing questions like

- What is AI Policy Research?
- What should be more/less visible in AI Policy Research?
- What are shared values and priorities?



AI Policy Lab
at Umeo University

AI Policy Summit

12-14/11/2025

@AI policy lab,

Umeo University

3. 感想（よく考えてないです）



（紹介セッション 1 から）

- AIガバナンスは、政策（policy）面だけではコントロールするのは難しい。

（紹介セッション 2 から）

- 世界のAI政策研究者が参加できる研究会を、「東京」で行うと、日本が議論をリードするイメージができて良い。





寺田真一郎 (Shinichiro Terada)
sterada@kitakyu-u.ac.jp

